

会員訪問 平成 26 年 9 月 11 日（木）AM11.45～ 永井建築設計事務所にて

訪問者 永井弘明 氏 工大 建築学科 昭和 53 年卒

現在役職等

永井建築設計事務所 所長

特定非営利活動法人

福井まちなか NPO 理事長

福井県建築士会 副会長

芝浦工業大学 校友会 福井支部 副会長

芝浦工業大学 校友会 英交会支部 会員

他



永井氏の素顔



永井建築設計事務所

経歴等 昭和 53 年 大学 建築学科卒業と同時に地元建築設計事務所に就職。

昭和 60 年 30 歳で独立 建築設計事務所を設立 現在に至る

（住所：910-0004 福井市宝永 1-14-13 TEL：0776-27-7153

E-mail：nagaimachinaka@ybb.ne.jp

NPO 事務局：特定非営利活動法人 福井まちなかNPO

〒910-0006 福井県福井市中央 1 丁目 10-1 URL/<http://www.machinaka.e-fukui.com>

まえがき

第 2 回の会員訪問はわが福井支部の永井弘明副会長にご登場願いました。

永井さんはまちづくり（特に、福井市中心市街地の活性化）に永く関わってこられました。そして、来春の北陸新幹線金沢開業を間近に控えて、成果が花開きつつあるように思えます。同時にこれからの活躍が大いに期待されていると私は感じています。

そこで、さる 9 月 11 日、永井さんの事務所を尋ね、いくつかのポイントについてお伺いしましたので、全国の校友の皆様にご報告したいと思います。

訪問に先立って、NPO の HP を閲覧させていただき、設立趣意書を読ませていただきました。この NPO の第一目的に掲げて活動することとなり大変印象的な思いをいだいて訪問しました。

設立趣旨（抜粋）

人々のライフスタイルが多様化するなかで、同時に日本は急速に高齢化しています。核家族化は進行し、情報技術が進化して、今後、日本においても人は個性化し、個人主義が重んじられる世の中になって行くと推測されます。

しかし、人はいかに個人主義に走ろうとも、人と人とのつながりを本能的に求めています。コミュニティに関する考え方も変わって行く中で、内に閉じた家族という単位をほどこき、世代を越えて融合する試みが今後求められてくるでしょう。つまり徹底したコミュニティ内の支え合いが必要なの

であり、コミュニティによるトータルケアが必要なのです。そして、社会システムを優しく包含するハードウェアとして「まちなか」は、今後必要不可欠な存在となってきます。

この度 TMO「まちづくり福井（株）」が設立されましたが、TMO はその構成上、また企業であるという性格上、公共事業等のハード面に関しては新たなる検討、提言をすることは非常に難しいと考えられます。しかし、コミュニティの場でもある、にぎわいのあるまちなかの実現のためには、ハード部分、特に公共事業の整備が必要であるため、今後とも行政にはご支援をお願いして行かねばなりません。

そのギャップを埋め、TMO との連携を図りながら一般市民の意見と地元の意見を集約した形で提言していける組織として「特定非営利活動法人福井まちなか NPO」を組織いたしました。福井市中心街のまちづくりに関心のある方なら誰でも自由に活性化の方策を議論し、また、その実行段階としてのイベント等も実際に企画、運営していくことができます。

是非とも多くの市民、県民の方のまちづくりに対する熱い思いを、この「特定非営利活動法人福井まちなか NPO」にぶつけていただきたいと考え、ここに NPO として設立いたしました。

Q1：まず、永井さんがまちづくりに関わるきっかけと最初の活動は何ですか？

A1：芝浦工大建築学科に入学して、東京に住むことになるが、我がふるさと「福井」を振り返った時、当時県庁移転問題が議論されている最中であった。これからのわが郷土をどうすべきか？特に関心をもって調査研究を始めた。そして、卒業論文は[福井のまちづくり]についてであった。

卒業後は帰省して民間会社に就職、8 年後に独立、YEG（商工会議所の青年部）に所属し、仲間の方々と交流を深めながらまちづくりへの具体的な活動を広げていった。その中から、必然的に市民目線のまちづくりの必要性や、商店主や経営者などの素朴な相談を受けて行動をする中で、行政や市民との活動に深くかかわることになっていく。（商店街の街路灯設置やアーケード街の計画など、いくつかの小さなプロジェクトに関わるうちに、コミュニティ形成とのかかわりの中で広範囲な解決策の視点が必要となり、市民目線での行政への的確な提言を行うケースも多く、長期的な視点を大切にしながら活動することが現在の活動につながっていったようです）

（関わったいくつかのプロジェクトの資料等を教示いただく）

Q2：次に、そんなに永く関わることになったのはどうしてですか？

A2：YEG は 45 歳で青年部を無罪放免となりますが、その後も関わりはますます深くなっていく。

特に、中心市街地を取り巻く環境は厳しくなるばかりで、市民と行政との間に立って、市民目線で問題を提起し、方向性を出していくことの役割の重要性がますます大きくなりそんな中で活動を続けてきた結果である。

また、市民といっても受益者として市民、納税者として市民、そのほかりスクを背負って街に投資を行う方々などの市民と三つ位の市民の立場があるが、その異なる市民の意見を調整していく役割が必要であり、誰かがこの役割を担っていく必要があるのでは？と思いつつ活動を継続していたら、いつの間にか NPO の理事長になっており、30 年近くたっていたということだそうです。

Q3：まちづくりについて一番大切なこと、ポイントとなることは何ですか？

A3：一つは市民目線（先ほど述べたように市民には3つくらいの異なる市民が考えられる）で考え行動することが特に重要である。二つ目は持続可能な政策であるかという視点である。すなわち、今後の人口減少時代を迎えて、よりよいコミュニティが確保される施策であるか、つまり、短期的にいいと思われる施策も長期的な視点に立ってみた場合継続不可能な場合も多く、あるプロジェクトの成功している都市も出生率が低く次の世代に繋がらない事例などを挙げて、そのような視点で活動していくことの重要性を教示していただいた。（永井さんは、人口減少と都市政策を関連付けていろいろな資料で説明くださった）

Q4：これまでの活動から現状と課題を踏まえて今後はどのようにしていこうと思いますか？

A4：第一に次代を担うリーダーの養成であり、第二は次世代へつなげる施策の提言を行うこと。たとえば、これからは国と地方との役割分担を明確にして、地方自治体ができることは自治体の責任で行うことが、良い地域のコミュニティを作っていくことに繋がり、持続可能な地域社会を形成することに繋がり、地方を活性化することになると信じて活動していきたい。

Q5：最後にまちづくりで一番大切なことは何ですか、または何だと思いますか。

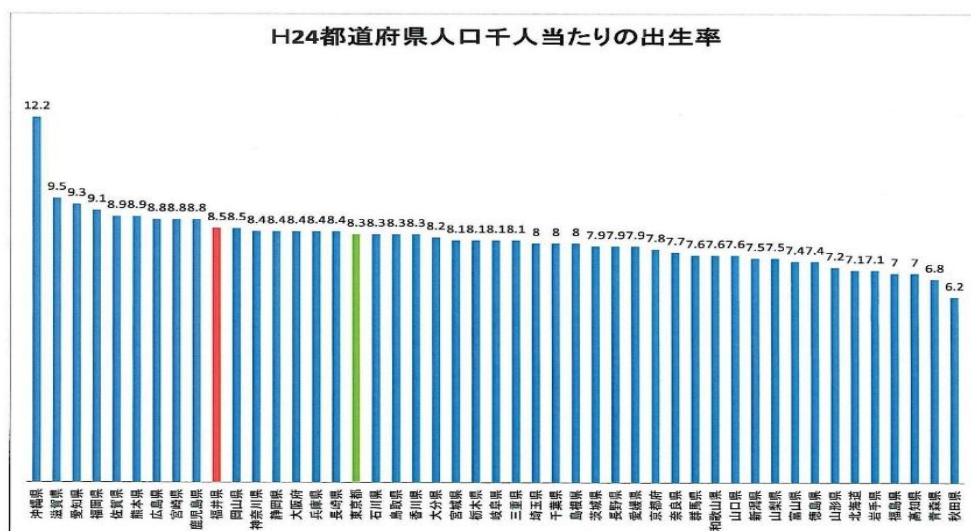
A5: まちづくりは私たち一人ひとりが主役であること、自分に何ができるか?という視点で考えていただくことが重要であると考えている。そのための提言活動を積極的に行っていきたい。(NPO の設立趣意書の思いと、永井さんの夢実現への強い志を感じたお言葉がひしひしと伝わってきました)

Q6: 本日はお忙しい中をありがとうございました。是非、全国の校友の皆様と同様な活動をされている方や具体的な問題点を考えておられる方は永井さんと連絡をとっていただいてみてはいかがでしょうか。校友会活動を含めて今後のますますの活躍を期待しております。

なお、福井まちなか NPO 活動はホームページ <http://fukui-machinakanpo.jimdo.com/> などをご覧ください

永井さん提供の資料

① 都道府県別人口千人当たり出生率



② 国会議員同席の内閣官房提言活動（右から2人目）と
県議・市議との県都シンポジウムでの永井さん（左から3人目）



JR 高架化事業と越前鉄道の高架化イメージ図（当時）

